

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	－	－	－
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数は前年比98%であったが、新テナントのオープンなどにより来店した客の購買が回復傾向にあり、購買意欲の上昇が感じられる。秋冬物の定価品の動きは前年並みであったが、改装による売場面積の減少があるなかで、売上は計画の99%に達しており、想定どおりの状況で推移した。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・4月以降、消費税増税前の駆け込み需要の反動で来客数が大幅に落ち込み、厳しい状況にあったが、10月は来客数が前月より2%増加するとともに、客単価も前年を3～4%上回ったことで、売上が前年を上回っており、ここ数か月でも良い状況となっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売量の前年比をみると、悪いなりにマイナス幅が縮小してきている。特に高額の人気車種での動きが顕著である。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税の影響が少しずつ薄らいでいる。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・インターネット予約及び直接予約が堅調であるほか、海外からの観光客も団体客、個人客ともに好調である。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・航空機利用者の動きをみると、観光、ビジネスの両面で人の動きが活発になっている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年と比べて受注が好調である。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・10月26日現在の来客数が前年比107%と前年を上回っていることから、やや良くなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・全体的なトレンドは変わっていないが、10月は天候が安定していたこともあり、飲食関係の店舗の売上が良かった。
		商店街（代表者）	単価の動き	・世の中全体の景気が下向いているなか、北海道はこれから冬に備えて出費のかさむ時期であるため、客が消費を引きしめにかかっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・売上が前年を下回っている店舗がほとんどである。天候面で悪い条件がないにもかかわらず、こうした状態は今までになかったため、少し心配な状況である。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・台風の影響で売上が減少したが、景気そのものは変わっていない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・10月半ばまでは売上が良いペースで推移していたが、後半に入ってから動きにストップがかかっており、それまでの貯金を使い果たす形となった。ここ数か月、1か月の間でそういう増減の激しい動きのみられる月が増えている。
		百貨店（役員）	お客様の様子	・ファッション関連は寒さとともに動きが戻りつつあるが、耐久消費財や高価格帯のブランド品の動きが鈍い。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量が減少気味であり、ほぼ足踏み状態である。販売量を7月と比較すると、8月が98%、9月が96%、10月が97%となっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・週末の来客数の減少傾向に変化がみられない。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数の減少傾向が続いている。消費税増税の負担感が増していることで、来店頻度を下げて消費を抑える傾向が出ている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・生鮮品の売上は回復傾向にあるものの、飲料水や菓子など、保存が効いて買いだめしておくような商材の販売量が減少している。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・寒くなってきたためか、節約のためかは分からないが、観光客や市民が街を歩く姿が減ってきている。展示会で多額の買物をする顧客もみられるが、売上は前年比92%となっている。光熱費などの物価の高騰が家計を圧迫している。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・ここ数か月、売上が前年を3割程度下回る状態が続いている。
		家電量販店（地区統括）	販売量の動き	・消費税増税後の低迷からは幾分持ち直しているが、依然として客の財布のひもは固く、ほぼ横ばいの状態が続いている。

乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・周りをみても、販売量が落ち込み気味であったり、売上を上げるのに苦しんでいる店舗が多い。景況感としては変わらないかやや下がっている状況にある。	
自動車備品販売 店(店長)	単価の動き	・タイヤの売行きをみると、販売量は前年並みとなっているが、価格帯が例年にないほど下がっている。	
その他専門店 [ガソリンスタ ンド](経営 者)	販売量の動き	・原油価格が低下しているが、石油製品の価格はまだ高いままである。	
スナック(経営 者)	来客数の動き	・11月の市長選を控えて客足が遠のき始めているが、今のところはそれほど落ち込みがみられない。	
旅行代理店(従 業員)	お客様の様子	・商談の生じるタイミングが遅い。客の状況が良ければ、早めの依頼が来るため、景況感としては厳しいまま変わらない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・例年、10月と4月はタクシーの利用が少ない月であるため、売上は8月や9月よりも悪く、ほぼ前年並みで推移している。	
タクシー運転手	来客数の動き	・8～9月と売上が前年から微増しているが、水準としてはほぼ前年並みで推移している。	
通信会社(企画 担当)	販売量の動き	・通信機器の秋商戦の動向をみると、期待ほどの集客は得られていないが、札幌圏がけん引していることで前年並みの売上を記録している。	
美容室(経営 者)	来客数の動き	・ここ3か月、来客数が低調に推移しており、前年を5%程度下回っている状況に変化がみられない。	
住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・消費税増税後の回復が遅れている。特に値がかさむ商材で回復が遅れている。	
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・10月は大きなイベントがなく、周辺住民も外出を控える時期であるため、平日、特に火曜日や水曜日の街中は閑散としていた。消費税増税の影響は薄らいできているものの、燃料費などの高騰もあり、自家用車で訪れる来客者が前年よりも減っていることが駐車場の様子からうかがえる。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・地方ということもあり、現在の景気はあまり良くない。貸切バスの安全性向上を目的とした新料金体系が導入されたことで、大型観光バスの貸切料金が値上がりしており、思うような集客ができていない状況にある。
	百貨店(売場主 任)	来客数の動き	・秋めいた天候となり、朝晩の冷え込みが続いているなかで、コートの売上は前年と比べて10%程度増加している。トレンドであるスカートも売上の伸び率が高い。ただし、婦人服、紳士服全体としては、前年の90%台となっており、非常に厳しい状況にある。物産展についても、9～10月と客単価、売上とも厳しい状況であった。
	百貨店(販売促 進担当)	来客数の動き	・消費税増税以降、来客数の減少傾向が続いており、回復のめどが立たない状況にある。
	百貨店(販売促 進担当)	それ以外	・消費に対する客の選別が厳しくなっている。ポイント付与やOFFセールなどの企画を仕掛けても、消費行動を刺激するに至らず、購買意欲の喚起になかなか結び付かない。
	スーパー(企画 担当)	来客数の動き	・既存店の来客数の前年比減少幅が大きくなっている。
	コンビニ(エリ ア担当)	来客数の動き	・来客数が減少しており、特にたばこの売上の減少幅が引き続き大きくなっている。価格帯別の販売動向をみると、低単価の商材が動いている。
	衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・消費税増税に加えて、電気料金などの値上げの影響から、やや悪くなっている。
	家電量販店(店 員)	販売量の動き	・暖房器具やストーブの販売台数が前年と比べて落ち込んでいる。
	乗用車販売店 (役員)	お客様の様子	・土日のイベントの来客数が増えてこない。同様に中古車展示場の来客数も少ない。新型車の発表を控えて先行受注を始めているが、過去の新型車発表前と違い客の動きが鈍い。
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・消費税率を10%に上げるかどうかの判断時期が間近となり、再度の税率上昇に対する不安感が増しており、年末に向けて客の財布のひもが固くなっている。
	高級レストラン (スタッフ)	単価の動き	・週末のランチタイムは満席となるが、平日は日によって一瞬満席となる程度であり、全体の売上は前年を10%程度下回った。閑散期に入ったこともあり、人件費と人手の兼ね合いから、回転率が悪くなりがちである。

	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・来客数が減少したことで、売上は前年を下回った。来客数は電気料金の値上げが発表されるとともに落ち込んだ。また、駅周辺の飲食店を対象としたランチ割引本の新刊が発行されたことで、駅周辺の飲食店の実質的な価格が大幅に下がっており、打撃を受けている。地方の店舗では、ミシュランガイドに掲載され、いつも混んでいた道南のそば店が、昼食時も席が空くようになるなど、今まで勝ち組だった店も厳しい状況にある。
	観光型ホテル (役員)	来客数の動き	・すべての客層において来客数が減少している。これまで好調であった海外客のほか、国内団体客も落ち込みが大きい。
	タクシー運転手	販売量の動き	・9月の売上が前年を10%ほど下回ったが、10月に入っても持ち直しの状況がみられず、引き続き減少傾向にある。特に夜間の客の乗車回数が減っており、ことさら販売量に影響を及ぼしている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・10月はイベントや観光客の減少などで売上が厳しく、3か月前と比較すると約8%の落ち込みとなった。前年と比較しても約2%の落ち込みとなっており、やや悪くなっている。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・身近な食料品や光熱費の値上がりの影響で今後に対する不安感が出てきており、出費を控える傾向が強まっている。収入の増加幅よりも値上がりの増加幅の方が大きいと、客からは不満の声が出始めている。
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー] (従業員)	来客数の動き	・天候不順に加えて、8月の大雨による風評被害もあり、特に観光客が減少している。
	住宅販売会社 (役員)	競争相手の様子	・マンションが分譲されている地域に偏りが出てきている。ある地域では、デベロッパー数社がマンションを分譲して供給過多の状態になっており、分譲マンションの売れ残り在庫が増えている。
悪くなっている	百貨店(売場主任)	販売量の動き	・電気料金値上げなどの影響もあり、客は必要な分しか買わなくなっている。
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・販売量が過去最低となるなど、景気は悪い状態にある。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・海外旅行については、円安やエボラ出血熱などの影響で高単価のヨーロッパ方面の受注が激減している。また、消費税増税の影響を受けて、ファミリー層の動きも鈍く、下期は大変厳しい状況にある。
企業動向関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている	—	—
	コピーサービス業(従業員)	取引先の様子	・客先から、新社屋建設の話や引越しの話をよく聞くようになった。それにともない受注も伸びている。
	その他サービス業[建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・前年を上回る状況が続いている。
	その他非製造業[鋼材卸売] (役員)	受注量や販売量の動き	・取扱商材の一部が品薄状態になるなど、販売量、売上とも好調に推移している。ただし、円安の影響により原材料価格が上昇しており、収益の減少が懸念される。
	変わらない	食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き
	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量が今月まで横ばいで推移している。
	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間工事とも受注量は引き続き堅調に推移している。全体的に発注量が多いことから、民間工事での競合は減少している。
	輸送業(営業担当)	取引先の様子	・紙製品の輸送は計画どおりに推移している。また、ここきて段ボールの輸出の引き合いもみられる。
	輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・秋の農産物収穫にともない輸送の繁忙期を迎えているが、道内向けの建築土木需要に勢いが無い。例年と比べると、在庫調整でまかなっているものが多く、海上入荷量が減少している。

	金融業（企画担当）	それ以外	・物価上昇の影響により消費マインドは慎重である。堅調に推移した建設関連は人手不足により工事の進捗に遅れがみられる。住宅着工は消費税増税の影響と建築費の高騰から落ち込んでいる。観光関連は外国人観光客が増加しているが、天候不順の影響などから、国内客、道内客とも低迷している。	
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税や地方都市の特徴である人口減少の影響により、土地取引や建物建築が今一つ活性化しておらず、一般的に景況感は後退している。	
やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税、円安、物価高、天候不順などの複合的なリスク要因が個人消費を低迷させている。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度初めに着工した建築工事がしゅん工時期を迎える一方で、新規着工となる工事が少ないため、建設会社の抱える仕事量が減少している。	
	司法書士	取引先の様子	・例年と比べて、登記前の土地の売買が増加しているものの、建物の新築工事は減少したままである。	
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税の影響による買い控え、物価上昇などにより、景気回復の兆しがみえないため、住宅の新築や土地の購入などの成約案件が減少している。	
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	受注量や販売量の動き	・消費税増税以降、一時的と思っていた受注量の落ち込みが回復してこない。トータルでは前年比90%程度の受注量にとどまっており、客先からの引き合いも鈍化している。	
悪くなっている	—	—	—	
雇用関連	良く	—	—	
(北海道)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・有効求人倍率が上昇している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から6.3%増加し、56か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から6.0%増加し、56か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部の業種で求人数の若干の減少がみられるものの、全体としては求人数の増加傾向が続いている。新規求人数は10か月連続で前年を上回り、月間有効求人数は19か月連続で前年を上回っている。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者が8～9月と2か月連続で増加しており、自己都合で退職した求職者も増えてきている。景気回復にともなう人手不足で企業からの求人が増加していることが背景にある。
変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が増加しており、就職決定数も増えている。しかしながら、当社へ寄せられる求人を見ると、その多くが高いスキルを必要とする求人であり、就職決定に至るまでの時間も要している。また、企業側がスキルの低い人材の採用を見送るなど、採用に当たって妥協することのない状況から、企業経営は決して余裕のある状況ではないとみられる。派遣のオーダーについてはコールセンターなど一部の業種でニーズが高いが、これもスキルへの要望が高く、一般の失職者がスムーズに仕事に就ける状況とは言えない。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・構造的にはまだ売手市場ではあるが、10月後半になり、上半期と比べて求人数の伸びが鈍化してきている。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・このところ求人数が減少傾向にあるが、減少幅は小さくなってきている。	
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・9月の新規求人数は前年を6.7%上回った。新規求職者数は前年を1.3%下回った。月間有効求人倍率は0.88倍となり、前年の0.82倍を0.06ポイント上回った。しかし、新規求人数のうち正社員求人の占める割合は45.6%と相変わらず低く、求人と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。	
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告件数は前年比で減少傾向のまま推移している。周辺企業から聞こえてくる声も、消費税増税や電気料金の値上げなどによる負担増に関するものが多く、明るい話が少なく。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・若干ではあるが、地方都市の求人数が減少し始めている。一般的に、小売に勢いが感じられなくなっている。飲食店などは混雑しているが、国内及び海外からの観光客によるものである。一方、医療介護、娯楽業は求人数が増えている。	

	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年を0.44%下回るなど、微減している。派遣、医療は大きく伸ばしたが、上位構成業種の小売、飲食、運輸、加工製造がそれぞれ5～20%減少したことが痛い。特に飲食は前年を20%下回るなど、減少幅が大きい。街中の飲食店の客足も落ちている。
悪く なっている	—	—	—